

## 1 単元名 ひきざん（2）

## 2 単元の見積

- ・繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数のしくみのよさに気付き、進んで計算をしようとする。（算数への関心・意欲・態度）
- ・減加法の考え方ができる。（数学的な考え方）
- ・（十何）－（1位数）で、繰り下がりのある計算ができる。（数量や図形についての技能）
- ・繰り下がりのある計算の仕方について理解することができる。（数量や図形についての知識・理解）

## 3 単元について

本単元は、（十何）－（1位数）で繰り下がりのあるひき算の計算の仕方について学習する。数図ブロックで具体的操作を行うことで、減加法による計算の仕方を理解させる。その後、適用題や計算カードによる練習を行い、徐々に計算の習熟を図るという構成となっている。減加法とは、例えば  $13 - 9$  の場合、 $10 - 9 + 3$  のように10のまとまりから9をひいて、残りの3を加える方法である。

これまで、（1位数）－（1位数）や（十何）－（1位数）＝（十何）を学習してきた。本単元は、次学年以降で学習する筆算の基礎となる重要な内容であるが、計算の苦手な児童にとってつまずきやすい単元の一つである。数図ブロックを用いて、いろいろなひき方を考えさせ、その手順を丁寧に押さえ、計算の仕方を理解させていくことが重要である。

4 児童について  
(略)

## 5 指導について

本校の研究主題「未来につながる力をもつ子どもの育成」を受け、話し合い部会では、「自分の考えをもち、進んで伝え合う話し合い活動の研究」をテーマに取り組んでいる。低学年での話し合い活動は、具体物を用いて話したり聞いたりすることや、少人数のペアや班で話し合うこと、大きな声で自分の考えを発表することを中心としている。

本時では、ひき算の計算の仕方を考える場面で、数図ブロックを操作して話し合う。その際、ペアワークを取り入れる。自分の考えを気軽に伝え合い、計算の苦手な児童も計算の仕方を見つけられるようにしたい。また、児童の求めに応じて、ブロック操作のヒントを書いたお助けカードを貸し出し、ブロックの動かし方を見つけられるようにしたい。

## 6 指導計画（12時間配当）

- |     |                       |             |
|-----|-----------------------|-------------|
| 第1次 | 20までの数の数え方とひき算の復習     | (1時間)       |
| 第2次 | 繰り下がりのあるひき算の計算方法      | (4時間 本時1/4) |
| 第3次 | 計算カードによるひき算の練習        | (4時間)       |
| 第4次 | □を使った式の素地             | (1時間)       |
| 第5次 | 式をもとにした、たし算とひき算の紙芝居作り | (1時間)       |
| 第6次 | 基本のたしかめ               | (1時間)       |


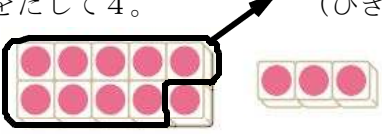
7 本時の目標

- ・(十何) - (1位数) で繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを操作し、計算方法を見つけることができる。

8 準備物

フラッシュカード、数図ブロック、お助けカード、色画用紙で作った木、ブロック図

9 本時の学習過程

| 学 習 活 動  | 支 援 (・) と 評 価 (☆)   |
|--|---|
| <p>○フラッシュカードをする。</p> <p>○問題を読み、立式する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>かきが 13こ になっています。<br/>9こ とると、なんこ のこりますか。</p> </div> <p>・ <math>13 - 9</math></p> <p>○本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><math>13 - 9</math> のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div> <p>○数図ブロックを操作し、計算の仕方を考える。</p> <p>① 13から1つずつひいていく。(数えひき法)</p>  <p>② まず3をひいてから、残りの6をひいて4。<br/>(ひきひき法：減減法)</p>  <p>③ 10のまとまりから9をひいて1。のこりの1と3をたして4。<br/>(ひきたし法：減加法)</p>  <p>○考えた計算の仕方を発表する。</p> <p>○どの方法がよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10から9をとると、1回でぱっととれるから、③のやり方がいいと思います。</li> </ul> <p>○数図ブロックを使って <math>11 - 8</math>、<math>15 - 9</math> の計算をする。</p> | <p>・答えが10までのひき算のフラッシュカードを見せる。</p> <p>・色画用紙で作った木を黒板に貼り、柿を動かして視覚的にとらえられるようにする。</p> <p>・問題から分かることに○、分からないことに波線を引き、整理する。</p> <p>・自分で考える時間をとってから、ペアで考えを確かめ合う時間をとる。</p> <p>・お助けカードを用意しておき、児童の求めに応じて気軽に貸し出すことができるようにしておく。</p> <p>・一つの方法を見つけたペアに他の方法がないか声かけをする。</p> <p>☆計算方法を見つけることができたか。<br/>(操作…考え方)</p> <p>・児童の考えを整理しながらブロック図に記入する。</p> <p>・一度でひくことのできる減加法のよさに気付かせる。</p> <p>☆数図ブロックを操作し、進んで計算をしているか。<br/>(操作…関心・意欲・態度)</p> |

10 授業の観点

- ・ペアワークを取り入れたことは、考えを伝え合うために効果的であったか。